

『実存主義×密教×心理療法』

～ 先人たちからの“みち”を辿り、その先へ ～

古来、人々は宗教や祭事、演劇、舞踊に癒しを求めて人生を創造してきた。
人は悲哀の中にあっても、人とのかかわりで癒されてきたのである。

そのような人の存在の本質とは一体何なのか。

多彩な講師陣を招聘し、様々な潮流の原点に立ち返り、
自然や人々の暮らしの中にある癒し、その中にある心理療法について考えたい。
先人が辿った道を巡り、人としての存在、人生、その本質について大会で触れ、
我々が歩むべき道(未知)の先へと歩みだそう。

日本ゲシュタルト療法学会 第11回大会

会期

大会プレ・ワークショップ
2020年7月23日(木祝)

大会

2020年7月24日～26日(金祝土日)

会場

高野山大学

和歌山県伊都郡高野町高野山385 <http://www.koyasan-u.ac.jp>

◆各種申込日程

申込種別	申込受付 開始	申込受付 締切
発表申込 ・口頭発表 ・ポスター発表 ・自主シンポジウム ・学会員による ワークショップ	2020年 1月20日	2020年 3月31日
大会参加申込	2020年 3月1日	2020年 7月1日

◆参加費

2020年7月23日(木祝) 大会プレ・ワークショップ		3,000円		
《早割》5月31日(日)までに着金確認できた方				
参加区分	3日間	2日間	1日間	
一般	30,000円	21,000円	15,000円	
会員	25,000円	18,000円	13,000円	
学生	15,000円	10,000円	5,000円	
《通常》6月1日(月)以降の着金の方				
参加区分	3日間	2日間	1日間	
一般	35,000円	25,000円	18,000円	
会員	30,000円	21,000円	15,000円	
学生	20,000円	15,000円	10,000円	

(※7月25日(土)18時～懇談会5,500円)

(※金額は全て税込)

◆大会詳細、参加申込、及び宿泊等について⇒大会専用サイト

ゲシュタルト11回

検索

【企画・運営】JAGT第11回大会実行委員会 大会長 白坂和美/ GNK(ゲシュタルトネットワーク関西)

【参加申込】2020年3月1日より申込受付開始!

大会専用サイト <https://jagt2020koyasan.net> の参加申込フォームからお申込ください

【お問合せ】大会に関するメールでのお問い合わせは info@jagt2020koyasan.net 宛に送信してください



大会長ご挨拶



白坂 和美 (しらかさ かずみ) GNK(ゲシュタルトネットワーク関西)代表 / HaLo(教育研修)代表

日本ゲシュタルト療法学会 (JAGT) 創設メンバー、平成22~27年理事、平成28~30年評議員を歴任。現在、関西にてJAGT認定ゲシュタルト療法トレーニングコース開催。JAGT認定トレーナー(暫定)。個人カウンセリング、企業研修講師、プレイバックシアターを展開。

ゲシュタルト療法で癒されてきただけでなく、人の存在に支えられてきたことを強く感じます。心理療法もまた日常の一部なのだ、特別ではないのだと最近思うのです。高野山という清らかな叡智溢れる地で一緒にできることを楽しみにしています。

招聘講師からのご挨拶 (敬称略 順不同)



Miguel Carlos Jarquín Marín

(ミゲル・カルロス・ホアキン・マリン)

メキシコの哲学者、心理療法士、臨床心理学博士、教育学者、ゲシュタルト療法家。2018年メキシコシティで行われたAMPG主催の“Figuras y Fondos (図と地) 2018”において、実存主義をベースにした講演を行う。

[ゲシュタルト療法における実存主義] (抄訳)

本大会では、「nosotros(私たち)」は、我と汝を咲かせる母体である」という原則を提示します。そのことで、治療の方法論から切り離します。つまり、気づきをもって相手に近づき、人の無条件の尊厳を尊重し、良心を豊かにし、あなたの限界を広げ、存在へのコミットメントを固めるように促します。そして、人生のよい面を信じ、私たちの秘めた力が生き生きと発揮されてゆくといった希望に翼を与え、私たちの愛の秩序に照らされて「未知な」ことにも命が吹き込まれてゆくでしょう。

ワークショップでは、参加者が自らの人生に気づき、更に気づきを深め、新たなプロセスを切り開ききっかけになればと考えています。そして、より開かれた世界、お互い、相手、自分自身を理解し、「今ここ」において、あなたと共にわたし(私たち)が存在する道を見つけてゆきましょう。



森崎 雅好 (もりさき まさよし)

高野山大学准教授。臨床心理士。高野山真言宗僧侶。主に自殺防止活動と遺族支援活動を通じてより良い「いのちのケア」の在り方を模索している。著書に『はじめての「密教的生き方」入門』(セルバ出版、2015)。

[密教と心理療法の隣接と実践]

臨床心理学を学び、現場に出てから数年が経過した頃、私自身の在り様への疑問と臨床の現場で出遭う方々の苦悩に直面して愕然とする時がありました。私は「人間の心の理(ことわり)」については初学者とはいえ、学んできたつもりでしたが、人生に起こる不条理な出来事への対峙の仕方については、全くの無知であったことに気づきました。そして、恥ずかしさのあまり高野山にきました。

私たちには心と体がありますが、その心と体を動かしている「いのち」がなくては生きてはいけません。真言密教はこの「いのち」の理(ことわり)についてみつめていく智慧の宝庫です。この学びを臨床現場でどのように活かすか、が今の私の課題です。皆様とご一緒に考えていきたいと思います。



東畑 開人 (とうはた かいと)

専門は臨床心理学・精神分析・医療人類学。沖縄の精神科クリニックでの勤務後、現在十文字学園女子大学准教授。「白金高輪カウンセリングルーム」開業。教育学博士・臨床心理士。著書に『野の医者は笑う一心の治療とは何か』(誠信書房2015)等。

[文化人類学と心理療法]

この一年、様々な領域の学者と議論をする機会を得ました。人類学者、宗教学者、社会学者、経営学者、教育学者などなど。近年、心理療法は専門化を遂げて、それは良きことなのですが、学際交流は減ってきたように思います。しかし、その知は本来、様々な分野とクロスオーバーするものです。というのも、それは人が「生きる」ことに関わるからです。

今年の学会は高野山で行われます。そこは古より学知の集積所であった場所です。そのような場所で、心理療法というものをより広い文脈から考え直し、語り直すことができればと思っております。宗教と心理療法は何が同じで、何が違うのか。そういうことを考えるのに、絶好のトポスではないか、と思っています。



小木戸 利光 (こきどとしみつ)

俳優、Theatre for Peace and Conflict Resolution代表。国内外の教育機関・企業にて芸術表現・ボディワーク・演劇を用いた教育実践、芸術療法としてのシアターワークを施す。主な出演作にNHK「あんととき」、主演、TBS「報道特集」密着ドキュメンタリー等。

[身体表現と心理療法の可能性]

人生のある時期、思いがけず、この心と身体の深奥が蠢きはじめた。身体を動かしたいというよりは、自ずと動いてくるというありようで、この命はつぎつぎと流動的に動作を欲していった。この命には、望んでいる方向、向かいたい方向がある。そうして感じるままに赴くままに大胆に身を捧げてゆくと、やがて自らの身体から舞いや踊りが噴出するように生まれてきて、それらは芸術表現となっていった。

そして、それから、はたと気がつくのだった。この芸術は、神事や祭事や演劇のなかで往時から祖先たちが祈るようにして捧げてきた切なる舞踊そのものではないか。古くからわれわれが自然や世界との大いなる関係性・調和性を尊ぶようにして行ってきた創造的实践ではないか。原風景との邂逅。こうして、私のシアターワークは生まれてきた。